

熱海のヒラメ放流と田子のカサゴ放流

大熱海漁協は、平成 29 年 5 月 12 日に熱海市曾我浦地先と伊豆山地先でヒラメ稚魚の放流を行ないました。放流したヒラメ稚魚は、静岡県温水利用研究センターで生産した平均全長約 3cm の種苗 10,000 尾を、4 月 18 日から、大熱海漁協近くに設置した陸上水槽で中間育成してきたもので、放流時の平均全長は約 6cm、放流尾数は曾我浦・伊豆山合わせて約 5,000 尾でした。当日は熱海市立第二小学校と熱海市立伊豆山小学校の 5 年生の児童が、海の資源を守ることの大切さを学ぶため放流作業に参加しました。児童達は当场職員によるヒラメの生態や漁業などについて説明を聞いた後、漁船に分乗してヒラメ稚魚を海中に放流しました。



写真 1 熱海曾我浦での小学生によるヒラメ放流

東洋水産株式会社田子工場は、地域社会への貢献活動として伊豆漁協田子支所や関係者の協力の下、カサゴの稚魚の放流を行っています。5 月 24 日に田子、安良里、仁科地区に標識として左腹鰭をカットした体長約 13cm のカサゴ稚魚を 12,000 尾放流しました。そのうち 1,600 尾を西伊豆町内の 3 つのこども園の園児が大田子海岸にて放流しました。放流体験の前に当场職員が園児達に食育ミニ講座としてカサゴの生態についてお話をしました。



写真 2 大田子海岸での園児によるカサゴ放流

(吉川康夫)